

# KYCに ロボティックプロセス自動化 が必要な理由トップ5

新しい口座を開いたりローン承認したりする場合、銀行は厳格な顧客確認 (KYC)、マネーロンダリング防止 (AML)、顧客デューデリジェンス (CDD) 要件を遵守しなければなりません。多くの組織でいまだに以下のような時間のかかる作業が手作業で行われています。

- ・ 個人情報の膨大なブラックリストや公開記録データベースとの照合
- ・ 社外や社内システムからの必要なデータの収集と統合

こちらでは、長期的にみて手作業がKYCコンプライアンスに適さない5つの理由と、インテリジェントソフトウェアロボットを今すぐ活用し、プロセスを改善する方法をご紹介します。

## 1 要件の増加と変化

手作業では、進化した増え続ける規制に対応するのは困難です。特に必要とされる本人確認書類は著しく増加しています。

金融機関の79%が、すでにKYCプロセスを変更するか、近い将来変更することを検討しています。<sup>1</sup>

業務プロセスを外部環境の変化に迅速に適応させることができるかと考えている銀行幹部は、わずか30%です。<sup>2</sup>

## 2 緩慢な商取引と収益の実現

認証プロセスを手作業で行う場合、顧客商取引に時間と費用がかかります。

41日 富裕層顧客との商取引にかかる時間<sup>3</sup>

5.4時間 高リスク顧客の審査にかかる時間

金融機関が新規顧客との商取引に要した時間は、2015年は2014年よりも22%増加し、24日となりました。

商取引に要する時間は、今年にはさらに18%増加すると予想されます<sup>4</sup>。

## 3 コンプライアンスに必要な年間コストの増加

平均的な金融機関は、KYC、CDD、顧客商取引に年間6,000万ドルを費やしています<sup>5</sup>。

コンプライアンスのために、今後4年間で世界中のリテールバンクはIT支出を20%増やす予定です<sup>7</sup>。

年間5億ドル以上かかっている企業もあります<sup>6</sup>。

## 4 違反に対する高額な罰金

手作業の場合、誤りや不明情報が発生する可能性が高くなります。

金融機関の70%が違反による影響として以下のことを懸念しています。<sup>8</sup>

- ・ 事業の制限
- ・ 罰金
- ・ ブランドに対するダメージ
- ・ 顧客と投資家からの信頼の喪失

2010年以降、銀行が支払った罰金は3,000億ドルを超えています。<sup>9</sup>

- ・ 世界の上位10行: 3億5,000万ドル
- ・ 米国の上位10行: 5,250万ドル
- ・ ミネソタ州に拠点を置く銀行: 1,000万ドル
- ・ 世界的な英国の銀行: 190万ドル

## 5 増員には効果なし

この1年間、金融機関の50%がKYCコンプライアンスのために従業員を増やしています<sup>10</sup>。しかし、それでも適切なスキルを備えた従業員を十分に確保できていません

70% 経営幹部を対象とした調査では回答者の70%が、この12カ月間KYCに費やす時間が増え、収益に関連する戦略的な活動の妨げになった、と回答しました。<sup>11</sup>

## インテリジェントボットによるKYCコンプライアンス

ロボティックプロセス自動化 (RPA) は、ソフトウェアロボットとインテリジェントビジネスルールを活用し、以下のようなさまざまなアプリケーションでコンプライアンス業務を実行します。

- ・ 個人の経歴を、米国財務省や移民税関捜査局などの制裁監視リストを含む何千ものサイトと自動的に照合します。
- ・ 規制当局のサイトを自動的に監視し、外部データを抽出することにより、規制改正に迅速に対応します。
- ・ 多数の異なる内部システムを接続し、個人の経歴をチェックします。

ITロボット自動化市場は、2020年には49億8,000万ドルの規模に達します。2014年から2020年までの年平均成長率は、60.5%になると予想されています<sup>12</sup>。

- ### 1-2-3の簡単なステップ
1. 従業員のやり方を模倣し、外部ウェブサイト、ポータル、アプリケーションに直接接続します。
  2. 個人情報の認証・検証に必要な既知の情報をすべて自動的に選別します。
  3. 提供されたデータの個人確認と提出された本人確認書類の有効性を含め、ロボットが結果を判断します。

## RPAでコンプライアンスの負担を軽減

一貫して0%のエラー率で100%正確なデータを提供します

ソフトウェアロボットは、数カ月ではなく数週間ですべてのコーディングも不要です。

- ・ 手作業で規制を監視したり、データを収集する必要がなくなります
- ・ コンプライアンス・リスク管理チームの能力が向上します
- ・ 違反に伴う高額な罰金や風評被害を避けることができます
- ・ 完全かつ正確な情報で監査証拠を残すことができます
- ・ 電子本人確認により、手作業によるコストが70%削減できます<sup>13</sup>
- ・ 従業員の生産性、サービス水準、能力が35%~50%向上します
- ・ 処理時間が最大で90%短縮されます (平均的なプロセスで30%~50%短縮)
- ・ 知識労働者が戦略的な業務に集中できます

## ロボットの活用事例

銀行の不正行為、違反、犯罪活動の影響に関する情報分析部門の調査・評価能力を向上させるために、世界的な大手金融機関がインテリジェントソフトウェアロボットを導入しました。これにより、1案件あたりの情報検索時間が最大で96%短縮され、アナリストの作業時間が1カ月あたり平均480時間削減されました。

RPAによるKYC、CDD、AMLコンプライアンスの合理化について、詳しくはKYC RPAのデモンストレーションを [をご覧ください](#)。

当社のブログ記事「4 Ways to Achieve KYC with Robotic Process Automation」(ロボティックプロセス自動化でKYCを行うための4つの方法)も合わせてご参照ください。



<sup>1,4,5,6,8,10,11</sup> Thomson Reuters, 2016 Know Your Customer Survey  
<sup>2</sup> CapGemini Consulting, Backing up the Digital Front: Digitizing the Banking Back Office  
<sup>3</sup> http://www.kofax.com//media/Files/Kofax/Infographics/infographic-wealth-banking-en-uk.pdf  
<sup>7</sup> Ovum  
<sup>9</sup> Capco  
<sup>12</sup> Transparency Market Research  
<sup>13</sup> Kofax